

平成 19 年 10 月 31 日

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ

平成 20 年 3 月期 連結決算業績予想の修正について

平成 20 年 3 月期連結決算の前回業績予想について、子会社業績予想の修正および業務純益の減少等を主因として、以下のとおり修正いたします。

なお、配当予想に関する修正はございません。

【中間期】

(単位：億円)	前回予想*	今回修正		
			増減額	増減率
連結経常収益	33,000	32,000	△1,000	△3.0%
連結経常利益	7,000	4,900	△2,100	△30.0%
連結中間純利益	3,500	2,450	△1,050	△30.0%

【通期】

(単位：億円)	前回予想*	今回修正		
			増減額	増減率
連結経常収益	67,000	65,000	△2,000	△2.9%
連結経常利益	15,000	11,500	△3,500	△23.3%
連結当期純利益	8,000	6,000	△2,000	△25.0%

*平成 19 年 5 月 23 日の公表数値

以上

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし前提（仮定）は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Report をはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものを参照ください。

(ご参考)

平成 20 年 3 月期業績予想の概要について

(単位：億円)	三菱 UFJ フィナンシャル・グループ連結		
	[参 考]		
	三菱東京 UFJ 銀行 (単体)	三菱 UFJ 信託銀行 (単体)	

【中間期】

[参考] 業 務 純 益 [信託勘定償却前・一般貸倒引当金繰入前]	単体合算		
	5,000	3,850	1,150
	(5,650)	(4,550)	(1,100)
経 常 利 益	4,900 (7,000)	2,700 (3,950)	950 (950)
中 間 純 利 益	2,450 (3,500)	1,850 (2,350)	600 (600)

【通期】

[参考] 業 務 純 益 [信託勘定償却前・一般貸倒引当金繰入前]	単体合算		
	10,450	8,250	2,200
	(12,650)	(10,250)	(2,400)
経 常 利 益	11,500 (15,000)	6,750 (8,850)	2,000 (2,100)
当 期 純 利 益	6,000 (8,000)	4,400 (5,300)	1,200 (1,250)

(注) 括弧内の数値は平成 19 年 5 月 23 日公表の業績予想数値

- 金利環境の変化による市場収益の減少や、国内法人貸出の利鞘縮小等により、グループ銀行単体合算の業務純益は、当初予想数値を下回る見込みです。
- 上記業務純益の減少に加え、当社子会社の三菱 UFJ ニコス株式会社における構造改革引当金等の計上を主因とする業績予想の下方修正等により、連結経常利益・連結純利益は中間期・通期とも当初予想数値を下回る見込みです。

▶ なお、サブプライムローン関連商品に対する投資については、以下のとおり、平成 19 年 9 月中間期で減損処理を主因として 50 億円程度の損失が発生する見込みです。

- 平成 19 年 9 月末における当社グループの有価証券投資総額約 43 兆円のうち、サブプライムローンに関連する部分は平成 19 年 9 月末時点で約 2,600 億円ですが、投資対象のほとんどは一次証券化商品^{*1}であり、その格付も約 96%は信用力の非常に高いトリプル A 格となっております。

当該投資については、現在、決算作業中の平成 19 年 9 月中間期において減損処理を主因として 50 億円程度の損失が発生する見込みです。

また、平成 19 年 9 月末時点の当該投資の評価損は 200 億円程度となる見込みですが、この評価損を含めた平成 19 年 9 月末時点の当社グループの有価証券投資の評価損益は、全体で約 2.9 兆円程度の含み益となっております。

- 当社グループでは、米国銀行ユニオン・バンク・オブ・カリフォルニアにおいて住宅ローン融資を行っておりますが、サブプライムローンそのものの取り扱いはございません。また、サブプライムローン関連資産の証券化のアレンジャー業務および同資産を担保とするウェアハウジングローン^{*2}は行っておりません。

さらに、当社グループが行っている ABCP プログラムのスポンサー業務で、サブプライムローンおよびその証券化商品を原資産とするものはなく、SIV(ストラクチャード・インベストメント・ビークル)を自ら組成し、その流動性補完を行っているケースもございません。

- なお、当社グループの三菱 UFJ 証券ではサブプライムローン関連商品に対する投資はございません。

*1 貸付債権等の(証券化商品ではない)原資産を裏付けとして証券化した商品。これに対して、「証券化された商品を原資産として、さらに証券化したもの」を二次・三次の証券化商品と呼びますが、一般的にはこれらの商品の方が、一次証券化商品に比しリスクがより複雑となります。

*2 投資銀行が証券化商品を組成する際、対象資産が集まるまでの間に供与するローン。

	平成 19 年 9 月末	平成 19 年 7 月末
サブプライムローン関連投資残高	約 2,600 億円	約 2,800 億円
同 評価損益	△200 億円程度	△50 億円程度
同 格付状況	トリプル A 格が 96%	トリプル A 格が 97%

以 上